



志・和・創

～「頑張り」と「優しさ」の発揮～



厚東川中だより第18号
宇部市立厚東川中学校
令和5年1月12日発行

3学期始業式 令和5年の始まりです

1月10日(火)、始業式を行いました。3学期は令和4年度のもよみの時期です。1,2学期をとおして切磋琢磨してきた自信と誇りをもって、最高の成果を発揮してほしいと思います。そして、3学期が終わる頃には、「こんなことができるようになった」「こんな自分になった」と成果が言えるようになってほしいと思っています。

始業式でお話した「3学期に大切にしてほしい二つのこと」について一部を掲載します。

「3153万6000秒。1年を秒に表すと、これほどの数字になる。その1秒を、価値あるものとするか。それとも、ただいたずらに費やすのみか。すべてはあなたの意志と行動が決める。」

1月1日の新聞広告の言葉です。3年生は卒業まで48日。秒に直すと414万7200秒。時間の重みを感じている今なら、その1秒の使い方もうまくできると信じています。2年生は「学校を担うリーダー」、1年生は「先輩」と呼ばれるにふさわしい姿になれるように時間を大切に過ごしましょう。

もう一つは、言葉を大切にしてほしいということです。

この元旦、神社の初詣に行った人も多いのではないのでしょうか。神社の入り口に狛犬(こまいぬ)という石像がありますね。

この狛犬、社(やしろ)を背に右側の狛犬は口を開け、左側の狛犬は口を閉じています。これは、阿吽(あうん)といって、口を開けている側が、物事の始まり(生まれたときに発する最初の言葉)を意味する「あ」を表しており、口を閉じている側が、終わりを意味する(死ぬときに発する最後の言葉)を意味する「うん」を表しているといわれており、両方で人の一生をあらわしているともいわれています。

この口を開けている狛犬の開けた口の中に、玉があるものがあります。どうして開けた口の中に玉があるのでしょうか。

これは、「何かを言うときには、玉のように美しく、輝く言葉を使いなさい。そうでないのなら、口を閉じておきなさい。」ということを表しているようです。

開けている口からは何でも出すことができます。だからこそ「人を惑わしたり、傷つけたりするようなことを口に出してはいけない」という戒めの「玉」が入っているのです。そして、片方の口を閉じている狛犬は、「自分の言葉を振り返り、発言の責任をしっかりと重く受け止める」という姿を現しています。

嫌な言葉、配慮のない言葉は、言われた側の人を傷つけるのはもちろんですが、言った側の人のも、自分では全く気づかない間に傷ついているのです。そんな言葉は、必ず自分に返ってきます。

これまで自分が使ってきた「言葉」について、振り返ってみてください。言葉には不思議な力があるのです。優しい言葉や美しい言葉、温かい言葉やさわやかな言葉をつかって、もっと楽しく安心できる教室、学校にして、応援したくなると言われるような学校をめざしましょう。

バトンはつながった 生徒会退任式・任命式

12月23日(金)、生徒会退任式を行いました。生徒会役員のメンバーは今年度は主体性を生かした生徒会活動をテーマに、運動会、文化祭など、各行事へのリーダーとしての参加はもちろん、生徒発信の地域連携活動の動きを作るなど、充実した活動をしてきました。ステップアップした厚東川中へとよくリードしたと思います。1,2年生にとっては、今の生徒会が、この1年間やってきたことが、ベースとなります。それをベースに、「もっと生徒会を変えたい」という



強い気持ちを持って、「気付き、考え、実行する生徒会」、「自らチャレンジする生徒会」を創り上げることを願っています。身近なところから課題を見つけて、「**どうすれば、何か良いことができるか？仲間、学校、地域を助けることができるか？**」を、**厚東川中生徒が「みんなで」**考えていければ、みんなが行きたい学校になるはず。全校生徒が令和5年の新生徒会メンバーなのです。

新生徒会長

この度、生徒会長となりました。私は、学校内や校区の人たちとの関わりを増やし、より学校が過ごしやすい環境になるようにしていきます。そして、新たな生徒会スローガンを自信をもって達成できたと言えるように、みなさんを含めた生徒会で頑張っていきます！

新生徒会役員



今日も厚東川中学校には、全校生徒の幸せを考える人たちがいます。

幸せのために、何ができるだろう。かけがえのない一言、かけがえのない一人、かけがえのない日常。何かをかけがえなく感じることから、幸せは始まるのかもしれない。**では、どうするか。**困っている人がいたら助ける。目の前の人を笑顔にする方法を考える。当たり前のことを丁寧に、そしてときどき当たり前を超えてみる。他の人の幸せを、自分の幸せのように思ってみる。自分のためではなく、人のために力を出す。人ともっとつながりたい。感謝し、感謝される、心を動かす強いつながり。そのための努力に真剣になりたい。この厚東川中学校での、かけがえのない一日のために

地域の力を子どもたちに！ ものづくり教室・保育実習・紙漉き

「様々な専門知識・能力をもった地域住民や関係団体等が関わることで、将来を生き抜く子どもたちに必要な知識・能力を育成できる」という思いで、積極的に地域の方に学校を支援していただきたいと思います。12月5日に1年家庭科の授業で「ものづくり教室 魚の調理」、12月12日に3年家庭科の授業で「保育実習」、総合的な学習の時間で「小野和紙漉き実習」を行いました。コロナ禍で、3年ぶりの実習もあり、徐々に体験活動も実施できるようになりました。ご協力いただき、ありがとうございます。生徒が笑顔で生き生きと活動する姿や、講師の方が喜んでくださる姿を見て、**学校が、生徒はもちろん、地域の方にとっても学び、交流を深める場となるように、地域連携を進めていきたいと、改めて思いました。**

ものづくり調理実習



後片付けも丁寧に

「魚の調理」では、食生活改善推進委員の方が講師として、魚のさばき方を指導してください。レンチョウの皮むき等下処理後、ムニエルに調理していただきました。初めての体験にドキドキでした。

保育実習

小野保育園さんにお世話になりました。鬼ごっこなどを園児と一緒にしながら、「園児の目線まで身体を下げる」という相手の立場に立った行動の大切さを学びました。



何をして遊ぶか話し合いです

紙漉き実習



小野文化伝承部会の末田会長さん他、地域のみなさんが講師です



地域の伝統文化である和紙作りを体験することで、1枚の和紙をつくるだけでもさまざまな工程や多くの人の関わりが必要だと知ることができました。生徒たちは、今回地域の方にいただいたことを、次は自分たちが小学生たちにも伝えていきたいという思いをもったようです。